

色彩学

BULLETIN OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

VOLUME 4 NUMBER 2 2025



巻頭言 10年の時を経て

第56回全国大会実行委員長 山内 泰樹（山形大学大学院）

本年6月に開催される第56回全国大会は、ちょうど10年ぶりに山形県米沢市の山形大学工学部米沢キャンパスで開催されます。本大会実行委員長の大役を再び仰せつかったことを機に10年という時間について思いを巡らせてみました。

「10年ひと昔」という言葉があります。ご存知の通り、この言葉は、10年という時間が経つと世の中はひとつの時代が移り変わることを表す言葉です。10年昔の境遇を懐かしんであれやこれやと思いを馳せる方も多くいらっしゃるでしょう。

この10年には、思いも及ばなかったような、大きな変化がありました。凄惨な自然災害が全国あちこちで発生したり、新型コロナウイルスによるロックダウンを経て働き方改革が行われたり、これまで以上に尊重されるようになったコンプライアンスに関する問題が取り沙汰されたりもしました。また、インフラの経年劣化や歴史的建造物の保護、世界的な平和や経済を揺るがすようなこともあったかと思えば、一方で多くの人の期待をのせて大阪・関西万博が幕開けしました。

あげればキリがないほど我々はこの10年に悲喜交々多くの体験をし、多くを考えてきたことがうかがえます。

10年という時は、社会・文化・技術などが大きく進化することが可能な十分な時間です。

改めて考えてみれば、こうしたあらゆる事柄のほとんど全てに色が関わっていることを再認識します。私たち日本色彩学会員は、こうした時代の要望に応える形で、それぞれが一生懸命に進化してきたのではないのでしょうか。

話を戻すと、「10年ひと昔」は、時間の流れの速さを感じさせる言葉でもあります。過ぎてしまうとあっという間ですが、そこには日々の苦楽がすべて積み重ねられて蓄積され一つの時代が形成されます。ここに到達するまでに、薄紙を重ねるようにしながら時代を作ってきたはずです。時に、あるものは拡大拡張し、あるものは縮小淘汰されながら。

科学技術は進化しても、それだけでは世界は成り立ちません。進化した技術を世に出し、改善点を見つけ、そしてまた改良する。その過程を記録し、必要な周辺環境を整える……こうした全てが協力し合って世界を構築しています。まるで私たち日本色彩学会のようではありませんか。文理の両方と、学術・産業・文化・教育などのあらゆるジャンルのエキスパートが揃っています。そのことに思いを寄せ、再び米沢で開催されるこの全国大会を機に改めて色彩に関して時代を牽引する学会として協力しあえたらと願うばかりです。

ここにそんな力強い未来を予祝して紅白のイベントを企画させていただきました。「米沢の紅白」と題して、変貌自在にさまざまな紅を表す「紅花染」と、その知られざる生態が魅力の「白猿」について組み合わせた、伝統と改革の両側面をもつ企画です。

どうぞドラマティックな歴史ある米沢の地で、学会員の皆様の進化の証としての発表と合わせて特別な時間をお過ごしください。第56回全国大会実行委員を代表し、多くの方の参加を心よりお待ちしております。